

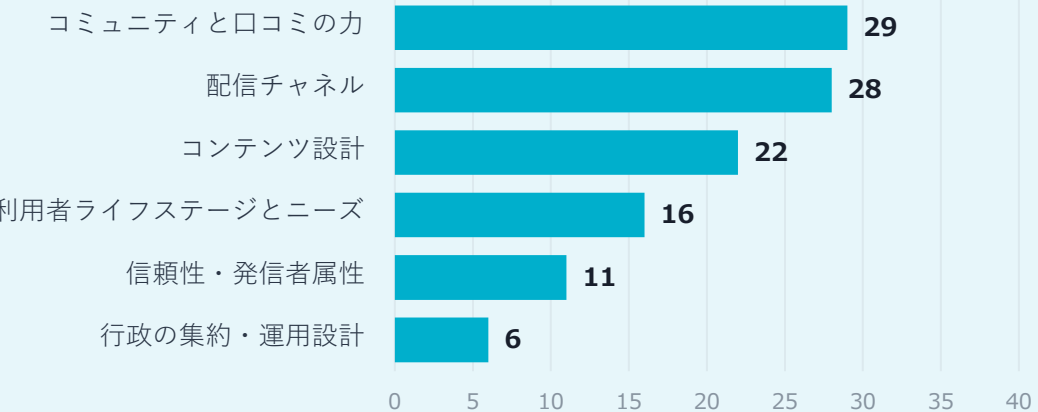
意見交換の概要と出された意見の分布

日時 2026年8月20日（木）13:30～ 場所 豊岡稽古堂3階 交流室3-1 記録・分析 3グループの討議を録音し「シビックとよおか」で分析

グループ討議①

意見143件／分類112件

子育て情報発信の目指す姿

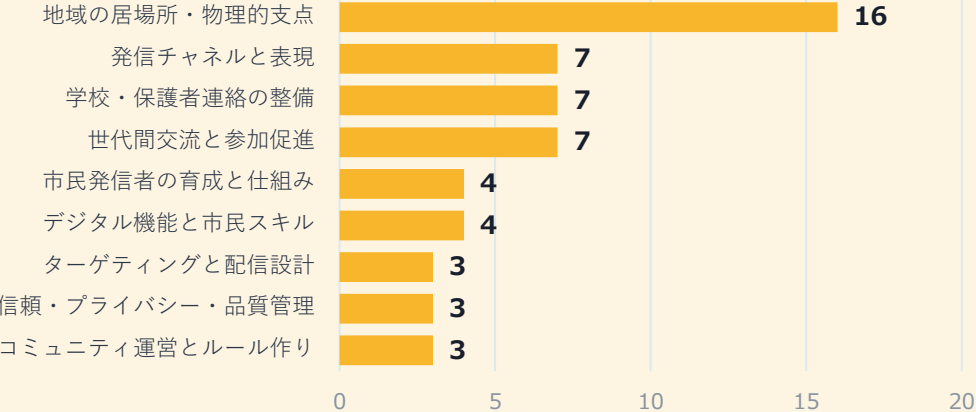


信頼される情報源は「人」。口コミと対面の雑談が実質的な主要チャンネルで、次いで媒体の選択と見せ方に関心が集まった。機械判定ではネガティブが33.5%と高く、課題の共有が中心となった。

グループ討議②

意見111件／分類54件

どうなったらいいか、どんなことができたらいいか



議論は「場」の話へ広がった。媒体そのものより、居場所づくりや学校連絡のデジタル化など運用の仕組みの提案が中心。ポジティブが64.8%まで上がり、提案型の議論へ転じた。

※ 論点の分類等にはAIによる分析を補助的に用い、文字起こしを確認のうえ整理した。

意見交換全体を通じて見えた方向性

01 最も信頼される経路は「人」

口コミや対面の雑談が実質的な主要チャネル。公式発信はそれを後押しし補完する設計に。

02 「入口」の設計が鍵

写真・ショート動画・要約で関心を引き、詳細へつなぐ。長文やPDF前提の発信は届きにくい。

03 ライフステージ別の接点維持

就学後に保護者同士の接点が急減。年代別の導線と「ここを見れば安心」の一元窓口が課題。

04 場（居場所）と情報は一体

人が集まる場ができれば情報の流通も改善。既存のコミセン・公民館の活用が現実的な第一歩。

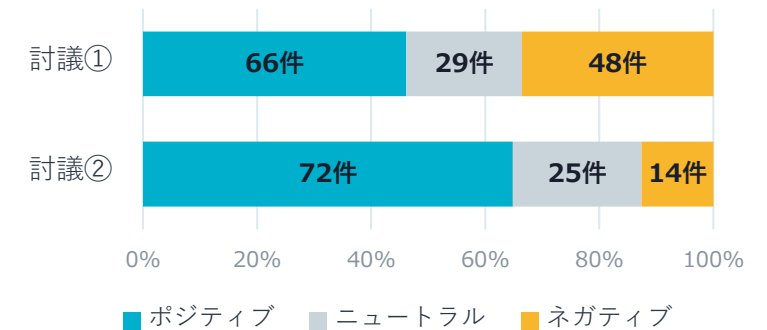
05 発信の担い手を広げる

市民発信者・職場・園なども担い手に。市はスキル育成と信頼の担保という役割を担う。

06 継続性と配慮を前提に

異動に左右されない運用体制、個人情報への配慮、オンラインの場のルール整備が前提。

討議①から②への変化



頻出キーワードの変化

討議① LINE・Instagram・紙・ホームページなど媒体の名前が中心

討議② 仕組み・居場所・コミュニティ・公民館など仕組みの言葉が中心

議論は「どの媒体で発信するか」から「どう続く仕組みをつくるか」へ — この6項目を検討のたたき台とする